

令和4年度

事業報告書

第 10 期

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月 31日

社会福祉法人 かなえ会

1. 法人本部

(1) 令和4年度の運営状況について

運営状況については、理事会を業務執行に関する意思決定機関とし、各事業所の経営及び運営方針を決定してきた。評議員会が運営に関わる重要事項の議決機関として最大限に機能を発揮することで、健全かつ公正な経営を行っている。今年度は、逝去による新役員（監事）選任を行ったが、不確かな点は所轄庁へ尋ね、円滑かつ滞りなく選任した。

当年度行われた指導監査においても文書指摘はなく、今後も適切な運営に取り組んでいく。

前年度同様、医療法人将優会との情報交換をはじめ、行政や宮崎県社会福祉協議会及び宮崎県老人福祉サービス協議会等が主催する研修会に積極的に参加した。

また、社会福祉法人としての地域・社会における役割を認識し、使命と責任を持って努めた。社会のニーズに応えるべく地域や関係機関・他事業所と共に地域医療介護ネットワークを形成し、今後も、常に情報を先取りすることで、医療と介護の連携による安心・安全な街づくりを目指し、地域に根差した活動と安心・安全かつ安定した事業運営を引き続き実施することで、地域・社会に貢献していきたいと考える。

(2) 理事会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	審議事項
第1回	令和4年5月28日 13:50~14:45 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事6名 監事1名	○令和3年度事業報告及び決算報告並びに監事監査報告について ○規程・規則改正について ○新役員候補者の提出について ○新役員（監事）候補者の提出について ○定時評議員会の招集について
第2回	令和5年3月18日 14:57~15:53 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事5名 監事2名	○令和4年度 第一次収支補正予算（案）について ○令和5年度 事業計画について ○令和5年度 収支予算について ○規程・規則について

(3) 評議員会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	報告事項・決議事項
第1回	令和4年6月25日 13:00~13:45 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	評議員7名 理事2名 監事1名	報告事項 ○令和3年度事業報告 決議事項 ○令和3年度計算書類等の承認について ○新役員（監事）候補者について

(4) 評議員 選任・解任委員会の開催

令和4年度の開催はなし

(5) 監事監査の実施

監事監査日時	令和4年5月19日 13:20~14:20
監事監査項目	○理事の業務執行状況 ○法人の財産管理状況 ○法人及び施設の業務執行状況 ○法人及び施設の会計状況
結果	指摘事項なし

(6) 職員の動向

【特別養護老人ホームかなえ・短期入所生活介護事業所かなえ・ケアライフかなえ】

職種	R4.4.1 現在 在籍者数	令和4年度		R5.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
施設長	1名	0名	0名	1名
事務職員	2名	1名	1名	2名
正職員 (よりそいへ異動)	1名 (0名)	1名 (0名)	1名 (1名)	1名 (1名)
パート	1名	0名	0名	1名
介護支援専門員 (副施設長兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	0名 (0名)	1名 (1名)
生活相談員	1名	0名	0名	1名
管理栄養士	2名	0名	0名	2名
調理員	6名	0名	1名	5名
正職員	4名	0名	1名	3名
パート	2名	0名	0名	2名
機能訓練指導員 (将優会へ異動)	2名 (0名)	1名 (0名)	2名 (1名)	1名 (0名)
(よりそいへ異動)	(0名)	(0名)	(1名)	(0名)
看護職員	3名	2名	2名	3名
正職員	3名	0名	1名	2名
パート	0名	2名	1名	1名
介護職員	30名	6名	13名	23名
正職員	18名	2名	4名	17名
パート	12名	4名	9名	6名
介護支援専門員 (ケアライフかなえ)	5名	0名	1名	4名
合計	53名	10名	20名 うち異動(3名)	43名

【住宅型有料老人ホームよりそい・訪問介護よりそい・通所介護よりそい】

職種	R4.4.1 現在 在籍者数	令和4年度		R5.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
統括管理者 (管理者兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	1名 (0名)	0名 (0名)
管理者 (ホーム長兼務) (機能訓練指導員兼務) (生活相談員兼務)	1名 (0名) (0名) (1名)	2名 (1名) (1名) (0名)	1名 (0名) (0名) (1名)	2名 (1名) (1名) (0名)
事務職員	0名	1名	0名	1名
生活相談員 (介護職員兼務) (職種変更)	2名 (1名) (0名)	1名 (0名) (0名)	2名 (0名) (1名)	0名 (0名) (0名)
正職員 (介護職員兼務) (職種変更)	1名 (1名) (0名)	1名 (0名) (0名)	2名 (0名) (1名)	0名 (0名)
パート (介護職員兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	0名 (0名)	1名 (1名)
機能訓練指導員 (管理者兼務)	1名 (0名)	1名 (0名)	1名 (1名)	1名 (1名)
看護職員 (機能訓練指導員兼務) (生活相談員兼務)	2名 (1名) (1名)	1名 (0名) (1名)	0名 (0名) (0名)	3名 (1名) (2名)
正職員 (機能訓練指導員兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	2名 (0名)	1名 (1名)
パート (機能訓練指導員兼務) (生活相談員兼務)	1名 (0名) (0名)	1名 (0名) (1名)	0名 (0名) (0名)	2名 (0名) (2名)
介護職員	10名	1名	2名	9名
正職員 (うち 職名変更)	8名	1名 (1名)	2名 (0名)	7名 (1名)
パート	2名	0名	0名	2名
調理員	4名	0名	1名	3名
合計	20名	7名	8名	19名

2. 特別養護老人ホーム かなえ（短期入所生活介護事業所 かなえ併設）

（1）令和4年度重点目標の達成状況

入居者一人ひとりが、これまでの生活歴や趣味・嗜好などを取り入れた暮らしを継続できるよう、想いや意向をくみ取りその方らしい暮らしの実現に向けて支援していきます。

→暮らしの中で、好きな食べ物や使用していた物品など嗜好品や生活習慣にしていたことをご本人やご家族から情報収集し、日々の生活が入居前と連続したものとなり、生きがいのある暮らしや穏やかな時間が過ごせるよう、ご本人の生活リズムを重視した支援を行った。

住み慣れた地域で安心した暮らしを送り、自分らしい人生の最期を迎えられるように、多職種及び医師や協力医療関係等と密な連携を図ることで「医療と介護の円滑な連携」を実践し満足度の高いサービスの提供を目指します。

→コロナ禍で限られた中、ご本人とご家族が安らかな最期を迎えられるよう、配置医師や多職種と連携を密にとり、その都度心身の状態に合わせたケアを検討した。

また、状態に合わせた面会の配慮を行い、ご家族から感謝の言葉も多く聞かれた。

自立支援に向けて日常生活の中での機能訓練や、生活の見直しなどを常に行うことで、入居者の残存機能を活かし自己にて出来ることへの喜びを感じていただけるようケアの質の向上に努めます。

→日常生活の中での機能訓練に重点を置き、移乗方法や福祉機器の使用など、利用者の状態に合わせて安全に生活できるよう（委員会やカンファレンス等を通して）ケアの検討・見直しを行ったが、職員によりケアの方法に違いや差が見うけられ、周知が図れていなかった。

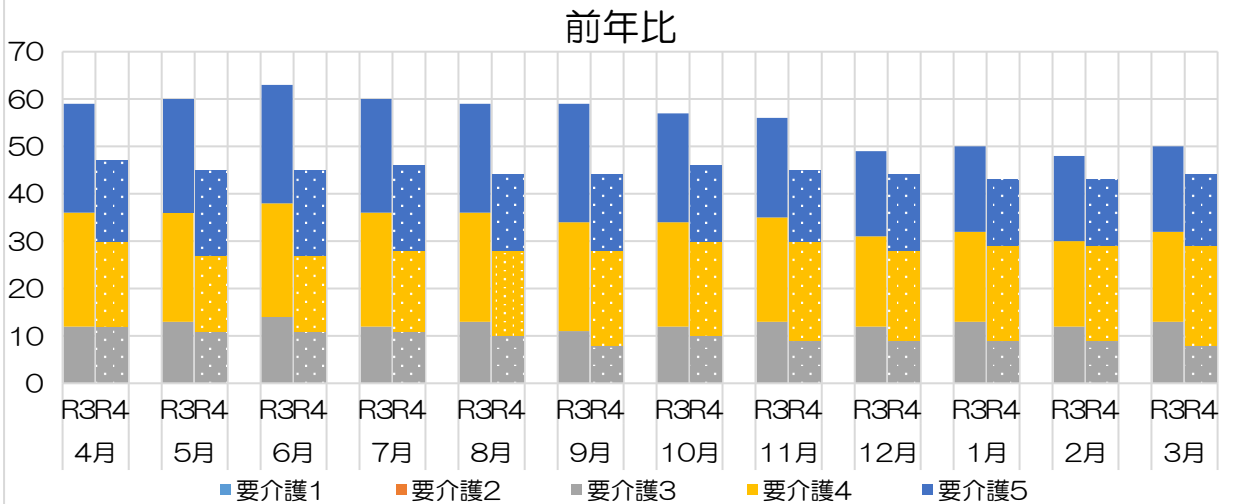
今後も、全介護職員のケアの質の向上を目指し、ケアの統一・検討・見直しを行い、利用者の安心感へ繋げていく。

(2) 事業実績

① 利用人数

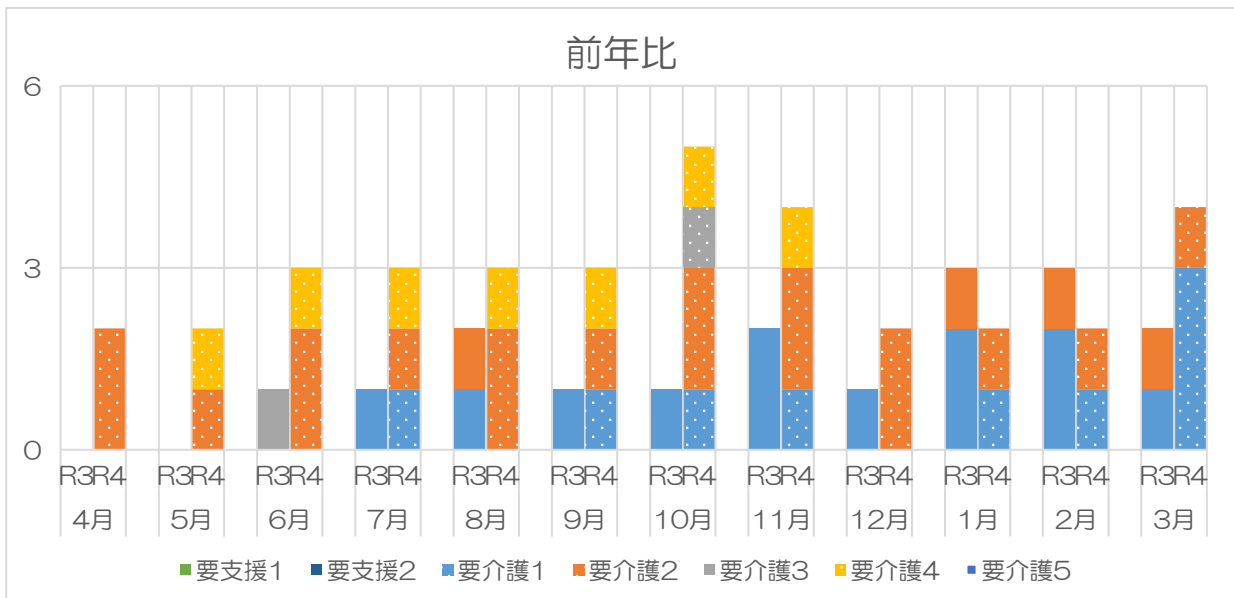
【特別養護老人ホーム】(請求実数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	12	11	11	11	10	8	10	9	9	9	9	8
要介護4	18	16	16	17	18	20	20	21	19	20	20	21
要介護5	17	18	18	18	16	16	16	15	16	14	14	15
合計	47	45	45	46	44	44	46	45	44	43	43	44



【短期入所生活介護事業所】(実人数)

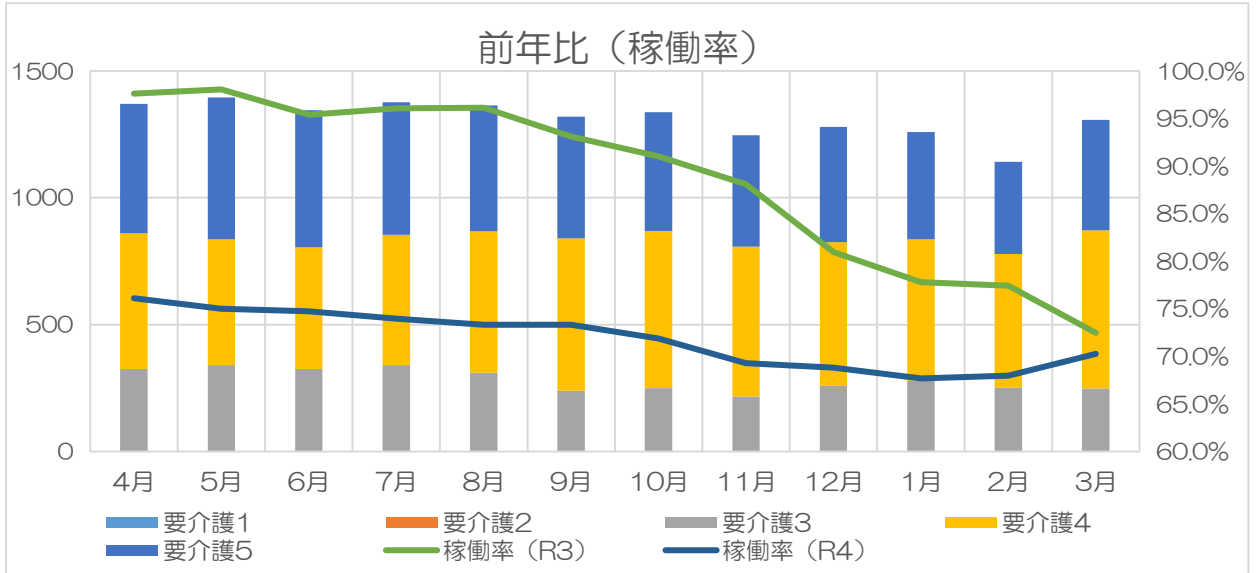
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	3
要介護2	2	1	2	1	2	1	2	2	2	1	1	1
要介護3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
要介護4	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	2	3	3	3	3	5	4	2	2	2	4



② 入居延日数及び稼働率

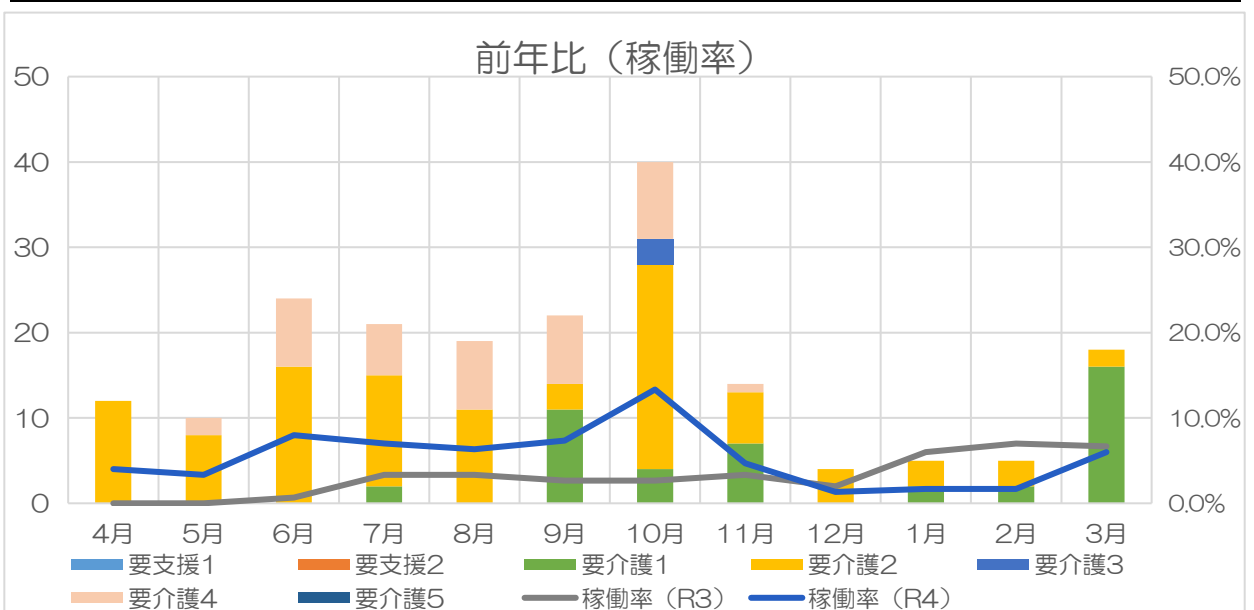
【特別養護老人ホーム】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	326	341	325	341	310	240	250	217	259	279	252	248
要介護4	534	496	480	513	558	600	620	591	566	558	526	624
要介護5	510	558	540	522	496	480	467	439	455	422	364	435
稼働率	76.1%	75.0%	74.7%	74.0%	73.3%	73.3%	71.9%	69.3%	68.8%	67.7%	68.0%	70.3%



【短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	2	0	11	4	7	0	2	2	16
要介護2	12	8	16	13	11	3	24	6	4	3	3	2
要介護3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
要介護4	0	2	8	6	8	8	9	1	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働率	4.0%	3.3%	8.0%	7.0%	6.3%	7.3%	13.3%	4.7%	1.3%	1.7%	1.7%	6.0%



(3) 入居者の状況

① 入居者の動向（入居前の居所）

月	在宅	介護施設				医療機関	有料老人ホーム	計
			特養	老健	グループホーム			
4月	0	1	0	1	0	1	0	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	1	0	1
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	2	0	2
11月	0	0	0	0	0	1	0	1
12月	0	1	0	1	0	1	1	3
1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	2	1	3
3月	0	0	0	0	0	2	0	2
計	0	2	0	2	0	10	2	14

② 退居者の動向（退居後の状況）

月	在宅復帰	介護施設 入所				医療機関 入院	有料老人ホーム 入所	死亡	計
			特養	老健	グループホーム				
4月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
11月	0	0	0	0	0	0	0	4	4
12月	0	0	0	0	0	0	0	3	3
1月	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	1	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計	0	0	0	0	0	0	0	17	17

(4) 職種別活動報告

生活相談員
<p>【目標の達成状況】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 利用者一人ひとりが抱える様々な課題や想いを適切に把握し、当施設のサービスを利用することで生活の質向上に繋がるように、利用者やご家族と一緒に考えていきます。 →今年度入居された方は 14 名で、医療機関からの入居が 10 名と最多であり、次いで有料老人ホームからの入居が 2 名、介護老人保健施設からの入居が 2 名であった。施設サービスの利用にあたり、安心・安全に生活が送れるように支援していく必要があり、入居に対して不安を抱えていらっしゃるご本人やご家族の思いや気持ちを汲み取りながら、寄り添った支援を続けていきたい。2. 利用者を主体としたサービス提供が継続できるよう、多角的な視点で物事を捉え、他職種や関係機関、外部事業所とも情報共有及び連携を行うとともに、必要な制度やサービス等の社会資源の活用を促進します。 →入居前の生活歴、家族歴、意向把握に努め、多職種で情報共有し、ご本人に合ったサービス提供が行えるように努めた。また、関係機関等からの情報提供を重視し、密な連携を心掛けている。今後も、関係機関や他事業所との連携を密に行い、本人主体のサービス提供が行えるよう努めていきたい。
<p>【年間活動状況及び評価】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 申し込みや事前面談の時点から生活歴や家族背景、生活環境等を適切に情報収集します。施設での生活の中で、可能な限り楽しみや役割を持って暮らし続けられるように支援します。 →新型コロナウイルス感染症対策のために、施設内の居室等の見学は行えていないため、パンフレット等を活用しながら入居後の生活がイメージしやすいよう施設内の様子や職員体制等について説明を行い、ご本人やご家族の不安軽減に努めた。また、ご本人の生活歴などの情報収集を行いながら、施設での役割や楽しみに繋がるように多職種で情報共有を行い、支援に努めた。2. 利用者やご家族からの情報は、関係する全ての職種や医療機関等とも共有し、サービスの質の向上を図ります。住み慣れた地域での暮らしと連続したものになるように、行政機関や各地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等とも連携を密にし、社会資源の活用もしていきます。 →関係機関からの情報を、多職種で共有し、生活の中に取り込めるようにサービスの向上に努めた。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等からの情報提供が、住み慣れた地域での暮らしの継続のために重要であるため、連携を密にし、適切な情報収集に努め、今後もサービスの質の向上につなげていきたい。3. 感染症拡大や大規模災害などの緊急事態においても事業が継続できるよう、他職種や関係機関、外部事業所、さらには地域住民の方々とも連携していきます。 →現在、事業継続計画の作成準備をしている。可能な限り外部事業所や地域とも連携を図り、実効性のある計画となるように慎重に進めていきたい。

看護

【目標の達成状況】

入居者様の健康管理に努め、施設での生活が維持できるように他職種と連携を図りながらケアに努めます。

→事前カンファレンス時に多職種で会議することで、利用者の問題点や改善点などを協議することができ、ケアにつなげることができた。

新型コロナウイルス感染症の感染対策による面会制限が続いたことも影響してか、体調を崩される利用者が多かったが、その都度情報共有しご家族への状況説明などこまめに行い、不安の軽減に努めた。

【年間活動状況及び評価】

1. 配置医師及び医療関係との連携を図りながら、常に入居者の健康状態に注意し、病状変化の早期発見できるよう介護職との連携を図り迅速に対応します。

→配置医師、医療機関へは、9時に連絡票報告の他口頭での報告を行い、16時には連絡票にて連絡・相談を行ってきた。それ以外の時間はクリニックへ電話連絡を行い、受診の相談や指示を仰ぎ対応できた。夜間帯の病状急変時にはオンコール体制にて、すぐに対応できるよう、介護・看護の連絡を密に行い、医療機関への依頼もスムーズに行う事が出来た。

医療機関受診件数	548件	(入居時検診・定期健診含む)
----------	------	----------------

協力歯科医療機関住診件数	335件
--------------	------

他医療機関受診件数	3件
-----------	----

他医療機関入院件数	2件
-----------	----

2. 介護職員が行う医療的ケアにおいては、配置医師と連携のもと、入居者の症状等状況を把握、判断し安全、かつ適切に実施できるよう指導します。

→医療的ケアを必要とする利用者に対し、介護福祉士認定特定行為業務従事者が、喀痰吸引・胃瘻による経管栄養注入を行うための手技の確認を定期的実施し、事故・アクシデントの発生はなかった。手技確認は行っていたが、実践につながる内容にはならなかったため、次年度は実践につなげられるような確認内容の計画を作成する。

3. 看取りについては、入居者だけではなくご家族の不安等によりそい、入居者、御家族が安心して最期を迎えられるよう支援していきます。

→今年度は17名の看取り介護を行った。ご本人やご家族のご意向をくみ取り、苦痛なく最期を迎えられるように、体調に変化がある場合はその都度ご家族へ説明しご意向を確認し、多職種で話し合いを行い、ご本人・ご家族との関わりを検討し支援してきた。

前年度に続き、新型コロナ感染症の感染対策のため面会制限を行っていたため、短時間の面会や、人数制限など満足のいく看取りにはならなかった面もあったが、その都度検討し配慮することで、退居される時は感謝の言葉もいただくことができた。今後もご本人とご家族が安心して最期を迎えられるよう支援していきたい。

4. 感染対策においては、地域での感染症の流行状況を把握し、流行時は迅速な対応に努めます。

新型コロナウイルス感染症発生時に備え、多職種で情報共有し迅速な対応に努めます。

→宮崎県感染症週報や協力医療機関、近隣の状況から感染症の発生状況などを確認し、状況に合わせ医療法人と共通理解のもと行動自粛や面会制限など行ってきた。

職員は出勤前、出勤時、退勤時に検温する、体調不良時は出勤しない、させないを周知し、標準予防策を徹底することで、現在までにインフルエンザ・ノロウイルスにおいても、感染者を一人も出すことなく経過している。

新型コロナウイルス感染症に関しても、職員の感染は数名見られたが、迅速に対応し感染拡大予防することで入居者への感染者は一人も出すことなく経過している。

今後も引き続き標準予防策を徹底し、あらゆる感染症に対し予防に努める。

5. 褥瘡を作らないケアの取り組み、チームケアの一員として専門性を発揮し施設サービスの向上に取り組みます。

→LIFEにて褥瘡予防計画を作成、3ヶ月毎の評価を行い事前カンファレンス時に多職種で評価を行い情報共有し、改善策を協議した。職員への周知徹底が不十分なところがあったため、次年度は周知徹底もしっかり行えるよう評価を行っていく。

また、多職種でウォーキングカンファレンスを行うことで、ポジショニングの見直しや除圧の必要性、褥瘡を作らない取り組みを再認識することができた。

介護（特別養護老人ホーム）

【目標の達成状況】

1. **入居者の生活がその方らしく、今までの暮らしと連続したものとなるよう、想いを尊重した支援をしていきます。**
→入居者の生活歴をもとに、ご本人やご家族からの情報を聞き取り、趣味や習慣、好きな音楽や馴染みのある日用品を取り入れることで、これまでの暮らしと大きく変わることなく落ち着いた生活が送れるように支援することができた。また習慣として食べていた物や嗜好品など、ご家族の協力のもと提供を行うことで、さらに穏やかに過ごせる環境を整えることができた。
2. **入居者が安心して穏やかな生活を送れるように、施設内外での定期的な研修に参加し、知識や技術の向上に努めていきます。**
→ケアの質の向上を目指し施設内外での研修に参加した。外部研修は、昨年に引き続きオンラインでの開催が多かったが、研修報告書の回覧共有や委員会での情報共有を行い、意識改革を行った。施設内研修では、委員会を中心に資料を作成し、YouTube等の動画を活用し、レポートでの振り返りを行い、全員参加型研修とし、ケアや意識の統一を図った。

【年間活動状況及び評価】

1. **多職種と情報共有を行い日々連携を図ることで、入居者が生きがいを持てるような暮らしを提供し、入居者やご家族の想いに寄り添った生活を送ることができるよう支援していきます。**
→新型コロナウイルス感染予防のため、クラブ活動や全体での行事の実施は自粛し、各フロアでの活動を行った。夏祭りや敬老会、クリスマス会や年頭行事など、各フロアで職員の提案を取り入れ、特徴を出したことで、利用者の笑顔が多くみられた。参加意欲が高まる活動を計画し、ほぼ全員参加する事ができた。
面会制限が長期に渡る中、電話や活動状況の写真を送る等近況報告を定期的に行い、御家族の不安軽減に繋がった。面会の可能な時期は、短時間かつ制限のある中で、少しでも面会していただき、職員が近況報告を行い、久しぶりに会われたご家族の安心に繋がった。
2. **施設内外での研修会に参加し、他職種での意見交換を行いながらお互いに専門性を高め、良質な入居者の暮らしを提供できるようなケアの質の向上に努めます。**
→多職種が介護職と一緒に入居者のケアに携わり、実践しながら意見交換を行い、状態に合わせたケアの見直しを行い、安全に生活のサポートができるよう具体的な検討や改善につなげることができた。
日々必要な支援が統一され、断続的にならぬよう、意識・支援の統一を図ったが、浸透されず同様のミスが起きたことが課題となった。

介護（短期入所生活介護事業所）

【目標の達成状況】

1. 利用者が在宅での生活を継続するために、自宅と施設生活の違いに不安がないよう関係機関と連携を密にし、安心して過ごせるように支援します。

→住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう、ご家族や担当ケアマネジャー、関係事業所から情報収集や情報の共有を行いながら支援した。ご自宅での生活状況や意向を聞き、落ち着いて過ごせる環境を提供できるように努めた。

また、「また利用したい。」とあっていただき、繰り返し利用していただけるよう、利用終了後にご本人やご家族からの意見を汲み取り、次回利用時に支援の改善を行った。

2. 災害や緊急時の受け入れや、福祉避難場所としての役割を意識し、地域の方々が安心して生活できるように努めます。

→地震や風水害等での災害対策として、避難訓練を行い、避難場所の経路や備蓄品について確認を行った。

また、職員の少ない時間帯での職員の動きについて、マニュアルを作成し、夜勤を行う職員で情報共有・確認を行うことができた。

【年間活動状況及び評価】

① 住み慣れた地域での生活を継続するために

(1) 利用者、ご家族の要望を聞きながら安心して住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、利用者の生活歴や心身状態、家族背景を理解し多職種で共有しサポートします。

(2) 緊急時に適切な対応ができるよう、ケアマネジャーや家族と連携を行い利用者の心身の状態や病歴などの情報共有を行います。

(3) 利用前はご家族、担当ケアマネジャーから自宅での生活リズムや生活環境の情報収集を行い、利用者が自宅での生活との違いに不安や戸惑いがないよう準備いたします。

(4) 地域で暮らしている方々の災害時や緊急時の受け入れや、福祉避難所としての役割を把握し、即時対応できるように備えます。

→利用前の生活状況と大きく変化しないように、生活歴や心身状態、家族背景及び意向をこまやかに情報収集し、関係する事業所とも密に連絡を取り情報共有に努めた。その為、持病を持ちながらも在宅での生活をされている方に対し、関係機関と連携することで身体状況の変化にもいち早く対応が行え今後のケア内容について意向確認を行うことで、ご家族やご本人が安心安全につながるケアができたと感じた。

新型コロナウイルス感染対策を行ったうえで、受入時に状態確認・抗原検査を行うことで、安全に受入をすることができた。今後も万全な感染対策を講じ、安心して利用していただけるよう、取り組んでいく。

9月の大型台風の経験から、様々な災害時に緊急受け入れが出来るよう、避難訓練時に物品や備蓄の確認・見直しを行うことができたため、次年度具体的に進めていく。

管理栄養士

【目標の達成状況】

1. 入居者一人ひとりの身体機能や病歴等に寄り添った、安心安全な食事提供を行い、健康的な生活の実現に向けて支援します。
→定期的に入居者の現状を把握し、一人ひとりに合わせた食事提供や評価（アセスメント・モニタリング）をすることで、健康状態・栄養状態の維持を図り、健やかな暮らしの支援に繋げることができた。
2. 季節の食材を取り入れながら、行事食やイベント食等、日常とは異なる食事を企画し、日々の変化や楽しみを感じて頂ける食事サービスを提供します。
→行事食や誕生日メニュー、旬の食材を使用した料理の提供等により、季節感、楽しみや喜びを感じて頂けるような食事提供を行った。

1. 健康状態や栄養状態を維持するために

- (1) 栄養状態に関する評価（病歴、体重、食事摂取量等）を基に課題を把握し、栄養状態の改善に向けた計画を作成します。作成後は定期的な評価・見直しを行い、食事変更やケアの改善に繋がります。

→栄養状態の評価（体重測定値、食事摂取量の変化、食事摂取の様子等）を実施し、抽出した課題に基づいた食事内容を検討し、食事提供を行うことができた（栄養ケアマネジメント）。

栄養ケアマネジメント実施人数：59名（前年度比 17名減）

→低栄養状態のリスクが高い入居者に対し、食事の観察、栄養状態、嗜好を踏まえた食事の調整等を実施し、褥瘡早期治癒への取組みや栄養状態改善を行うことができた。

栄養ケアマネジメント強化加算実施人数：59名

- (2) 病歴・検査データ・体重等により配置医師が、食事療法が必要と判断した方には、療養食（例減塩食）の提供を行います。

→入居時には、協力医療機関にて検査を行い、その結果から医師が必要と判断した利用者へ療養食の提供を行った。定期健診時は結果に応じた見直しを行い、入居者の状態に合わせた食事提供ができた。

療養食提供人数：57名（前年度比 12名増）

- (3) 嚥下機能が低下した方に対して、歯科医師・歯科衛生士・多職種と連携し、口腔内の状態、咀嚼・嚥下機能、食事形態等を総合的に評価しケアに繋げることで『口から食べる』ことを支援します。

→日常的な摂取状況を把握する為、ミールラウンドにて食事摂取時の様子を観察し、多職種で共有を図った。食事時の座位や頸部の角度、介助時の一口量やペース等、評価の内容が充実し、状態に合わせた安全な食事提供ができた。

『口から食べる』ことの支援（経口摂取継続の取組み）：5名（前年度 3名）

2. 楽しみのある食事を支援するために

季節の食材を使用した食事、行事食やイベント食、新メニューの立案等、バラエティに富んだ献立を提供することで、食事に楽しみを持って頂きます。

→ミールラウンドや嗜好調査等を通して、入居者様の意向に寄り添った食事を提供するとともに、季節の行事にちなんだ食事や、季節の食材を使用したメニューを献立に取り入れることで、四季の変化を感じて頂けるよう工夫した。

また、毎月『誕生日メニュー』を取り入れており、イベントではお花見や敬老会、クリスマス料理の内容を企画・実施し、献立がマンネリ化しないように心がけた。

今後も継続し、季節感のあるバラエティに富んだメニューを増やしていきたい。

3. 新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の緊急事態に対応できる体制をつくります。非常用備蓄食品の整備、多職種での情報の共有を行います。

→感染症や災害発生時のライフライン停止の影響による対応の見直しを行い、備蓄食品の購入案（内容・献立）作成を行った。今後は購入・整備を行い、保管場所・使用方法等の周知における多職種での情報共有を徹底していく。

機能訓練指導員

【目標の達成状況】

1. 入居者一人ひとりがその人らしく生活するために必要な身体や心の健康そして住空間や福祉用具の環境を整え、楽しみや生きがいを感じて頂けるよう他職種と協働し寄り添ったサービスを提供します。
→入居者の日々の心身状態の変化において、多職種で協同して対応することができた。また、入居様の日々の訴えに傾聴し、入居者一人ひとりに寄り添うことで安心して生活できるサービスが提供できた。

【年間活動状況及び評価】

1. 入居者一人ひとりがその人らしい生活を送るために

- (1)一人ひとりの身体と心の状態を継続的に分析し適切な機能訓練を実施することで安心・安全な生活を送る援助をします。

→生活リハビリの一環として携わる中で、専門職としての知識を介護職員に伝え、利用者の身体的な負担を減らすような介助を行うことができた。また、多職種連携（ユニットカンファレンスの実施）を定期的に行い、入居者の心身の変化に柔軟に対応することができ、一連の流れがスムーズに行えた。

- (2)小集団での機能訓練を提供することで、他入居者とのコミュニケーションや場の共有を図り、会話や活動を通して、心的距離を縮めることができるような機会づくりを行います。身体機能の関わりだけでなく、メリハリのある生活を提供します。

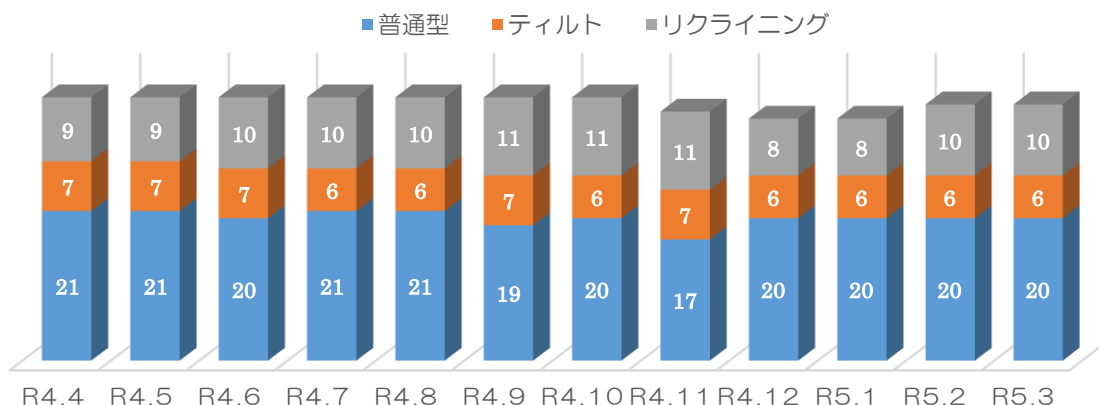
→嚥下機能の低下を防ぎ安全な食事を提供できるように、小集団にて10分程度の口腔集団体操を実施した。上肢（リーチ）・手指（巧緻・ピンチ）体操、口腔マッサージ（咀嚼筋群・唾液腺）、脳トレ（見当識・各種高次機能など）、発声練習を行った。

利用者の心身状態に合わせ、居室で個別に口腔マッサージを行ったり、体調に応じた日程変更など、工夫しながら個別に対応したことで口腔機能の維持ができた。

- (3) その方らしい生活を送るための住環境と、福祉用具の調整や導入の検討を行います。

→加齢や身体機能の低下に伴い、ティルト式の車椅子やリクライニング式の車椅子の割合が増えてきたため、心身機能の評価を行い、優先順位を選定した。

車椅子の使用数



介護支援専門員

【目標の達成状況】

1. 入居者一人ひとりの個性を尊重し、想いの実現が図れ当施設での生活が安心・安全で満足度の高いものとなるようサポートします。

→個別ケアの実践に向け、多職種で連携を図りながらケア内容の検討を行うことはできたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、日常生活の活動や面会の制限を強いられる状況が続いた。次年度は、感染症に対する国の方針も大きく転換することとなる。引き続き、施設での基本的な対策を徹底しながらも、利用者の想いを尊重した生活の実現を目指していきたい。

2. 施設内外における多職種連携の要としての役割を自覚し、自己研鑽を重ね、より質の高いサービス提供が可能となるよう努めます。

→昨年度と同様に、施設内外の研修はオンラインで行われることが多かった。最新の情報を積極的に収集し、関係職種や外部事業所と情報交換・共有をこまめに行うように努めた。

【年間活動状況及び評価】

1. 入居者一人ひとりの生活状況や心身状態はもちろんのこと、生活歴や家族背景、趣味・嗜好をこまやかに情報収集し、入居者やご家族の想いに寄り添い、生活の質を高めることができるよう施設サービス計画を策定していきます。

→同じ要介護度であっても心身状況は様々であり、生活歴や生活に対する意向も一人ひとり違うため、入居者やご家族、多職種から多くの情報を収集するように心がけている。入居者が安心・安全な環境で目標や役割を持って生活できるよう、個別ケアの実践に向け施設サービス計画策定を行っていききたい。また、コロナ禍で控えていた入居者やご家族との対面でのコミュニケーションの機会を増やし、生活に対する意向をより反映できるようにしていきたい。

2. 日々変化する利用者の状態把握に努め、過不足なく適切なケアの提供がなされるよう他職種及び協力医療機関をはじめとする外部関係機関とも密に情報共有を図り、計画の評価や見直しを行います。

→多職種で個別のケース検討を行うことで、幅広い視点で入居者一人ひとりの心身状態の変化の把握が行えている。様々な専門職が集まることで気づきも多く、施設サービス計画内容にも個別ケアを取り入れられている。今後も、高齢者の特性を踏まえ状態変化を速やかに察知し、適切なケアに繋がられるよう計画内容の評価・見直しを行っていききたい。

3. 感染症や大規模災害に対応できる切れ目のない介護・医療体制の構築に向けて、整備や必要な情報発信を行うことで、入居者やご家族の不安軽減を図り、信頼関係をより強固なものにしていきます。

→新型コロナウイルス感染症対策が長期に渡り続いていることで、担当者会議などを通して、入居者・ご家族の不安や不満を聞く機会も少なからずあったが、特に面会に関しては、県や市の感染状況を踏まえつつ、少しでも制限の緩和ができるよう働きかけ、多職種で協議を重ね、協力医療機関へも指示を仰ぎながら、状況に応じた対応ができたと考える。次年度は、感染症や大規模災害に備えBCP（事業継続計画）策定に取り組む必要がある。実情に合わせた計画となるよう多職種で進めていきたい。

4. 施設内外の研修へ積極的に参加し、介護支援専門員としての質の向上に努めます。

→今年度は、社会福祉研修センターの研修や介護支援専門員協会の更新研修へ参加することができた。オンライン研修が中心であったが、充実した内容の研修を受けることができたと感じている。次年度は、介護報酬改定が近づき、研修やセミナーの増加が見込まれるため、積極的に情報収集していきたい。また、研修で得た情報は報告書で共有するようにしているが、より浸透でき、実践に活かせる方法を確立することが今後の課題である。

(5) 委員会活動報告

入居判定委員会	
【活動目標の評価】	
<p>1. 当施設における「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性の高さにより入居の順位を確定する。</p> <p>→今年度は、14名の入居判定を実施した。コロナ禍の長期化した影響があり、昨年度以上に、入居申込者が減少傾向であった。そのような状況の中、身体状況の急変や認知機能面の悪化により入院加療を要し、在宅生活の継続が困難となる事例が複数あり、「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性を見極め、入居の順位を確定することができた。今後も、新型コロナウイルス感染症の感染状況を含め、要介護者を取り巻く環境や施策の動向に注視しながら、適切な入居判定を行っていききたい。</p>	
<p>2. 要介護1及び2の方であっても、やむを得ない事情により当施設以外での生活が著しく困難であると認められる場合の入居判定を行う。(特列入居の判定)</p> <p>→特列入居の実績はなかった。当施設の役割を自覚し、やむを得ない事情により特列入居に該当する方の支援ができるよう行政機関や地域包括支援センター等と密な連携に努める。</p>	
【年間活動状況】	
月	具体的活動内容
4月	申込者2名判定。結果：判定可 2名、判定否 0名、保留 0名
5月	対象者なし
6月	対象者なし
7月	申込者1名判定。結果：判定可 1名、判定否 0名、保留 0名
8月	対象者なし
9月	対象者なし
10月	申込者2名判定。結果：判定可 2名、判定否 0名、保留 0名
11月	申込者4名判定。結果：判定可 3名、判定否 0名、保留 1名
12月	申込者1名判定。結果：判定可 1名、判定否 0名、保留 0名
1月	申込者3名判定。結果：判定可 3名、判定否 0名、保留 0名
2月	対象者なし
3月	申込者2名判定。結果：判定可 2名、判定否 0名、保留 0名

褥瘡対策・排泄委員会

【活動目標の評価】

1. 褥瘡予防の為、問題点の改善、情報の共有を行い多職種で検討します。

→LIFE を用いて褥瘡計画書を3ヶ月毎に作成し、事前カンファレンス時に多職種と評価・検討を行った。
その後も情報を共有し、改善策を協議実践したが職員への周知が徹底しておらず課題が残った。

2. 研修会やウォーキングカンファレンスを企画し、職員の知識理解や技術の向上を図ります。

→研修会で排泄ケア・清潔保持についての意識付け、新人職員には指導を行う事で技術の向上を図った。
また、ポジショニングによる除圧や車椅子の扱い方の周知を行った。ウォーキングカンファレンスでは、褥瘡を作らない為のポジショニングの検討や体位交換による除圧に取り組んだ。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動目標の確認と共有 ・使用オムツ製品の評価 ・褥瘡発生者の経過報告 ・第1回研修打ち合わせ ・オムツの使用状況報告 ・褥瘡ケア計画書の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修 「オムツの当て方・清潔保持について」 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修の振り返り ・ウォーキングカンファレンス打ち合わせ ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンスの振り返り ・第2回研修の打ち合せ ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修 「車椅子の扱い方とポジショニング」 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研修の振り返り ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス打ち合わせ ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンス ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングカンファレンスの振り返り ・1年間の振り返り ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の振り返りから課題・提示・話し合い ・次年度の計画作成 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の計画作成の確認 ・褥瘡発生者の経過報告 ・褥瘡ケア計画書の確認 ・オムツの使用状況報告

栄養管理委員会

【活動目標の評価】

1. 食事サービスの実施状況を把握し、改善事項の抽出や対策を多職種で検討することで食生活の質の向上を図ります。また、各種イベント食の企画・開催し、年間を通して入居者への食の楽しみを提供します。

→嗜好調査、検食の見直しを実施し、調査結果や検食の内容を献立やメニューへ反映することができた。
 また、調理リーダーを委員会に加え、嚥下調整食（食事量や食形態）の見直しや評価、マニュアル作成を行い、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行うことができた。今後、食事に対する楽しみを増やすためにも、ミールラウンドでの食事状況の観察や多職種との情報交換を行い、入居者の世代や時代背景を考慮した食事提供を行っていく。行事食は季節毎に企画し、提供することができたが、感染対策により小規模であったため、今後は多職種で協力し企画・開催回数を増やし、入居者が楽しんでいただけるよう取り組んでいく。

2. 施設内における食中毒の発生及びまん延を予防します。

→各ユニットのキッチン周りは、カトラリー（箸やコップ等）の衛生管理を徹底できていたが、整理整頓が不十分な点がみられた。感染対策委員会と連携し、マニュアルの活用方法や啓蒙活動を行い、食中毒予防に努めていく。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 活動目標の確認と共有 食事提供状況の把握、改善事項の抽出 <ul style="list-style-type: none"> お花見御膳
5月	<ul style="list-style-type: none"> 研修会打合せ（食中毒予防） 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 端午の節句料理
6月	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の実施（食中毒予防） 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 紫陽花御膳
7月	<ul style="list-style-type: none"> 研修会打合せ（とろみ剤） 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 七夕料理
8月	<ul style="list-style-type: none"> 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> お盆料理
9月	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の実施（とろみ剤） 嗜好調査の実施（9月下旬～10月上旬） 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 敬老のお祝い料理
10月	<ul style="list-style-type: none"> 嗜好調査の実施（9月下旬～10月上旬） 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 紅葉御膳
11月	<ul style="list-style-type: none"> 嗜好調査の結果報告 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 霜月御前
12月	<ul style="list-style-type: none"> 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> クリスマス料理 大晦日
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の活動の振り返り 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> お正月料理
2月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の計画作成 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 節分料理
3月	<ul style="list-style-type: none"> 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> 桃の節句料理

感染対策委員会

【活動目標の評価】

1. **新型コロナウイルスなど集団感染が発生した場合に備え BCP を策定し業務継続できるようにします。**
 →新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症に関して集団感染はなかった。
 BCP 策定には至らず内容の確認もできていないため、次年度は完成するよう多職種で検討、作成していく。
2. **感染症発生時に必要な衛生資材の確保と管理を行い、多職種で情報共有し迅速な対応に努めます。**
 →感染症週報の他、ニュースや新聞などの情報にも注意し、感染状況により協力医療機関と連携し対応を検討した。職員の感染予防対策のための対応は継続して行った。
 衛生資材は、各ユニットに設置しており毎月感染委員会メンバーが中心となり在庫管理を行った。
 集団発生した時に不足にならないようメ委員以外の職員への周知も行った。
3. **職員一人一人が感染症の正しい知識を習得し感染予防に取り組むための勉強会を実施します。**
 →コロナ禍のため、集団での実践的な勉強会は今年度もできなかったが、防護服の着脱やごみ処理の仕方など動画を各自視聴しレポート提出することで正しい知識の習得を図った。
 次年度は実践での勉強会を行い、日常的に意識できるような内容にしていきたい。
4. **日常から入居者の健康状態を把握し、感染症状が発生時迅速に対応します。**
 →発熱や嘔吐下痢などの体調不良者発生時は、多職種情報共有を行い、協力医療機関へ報告を行い検査をするとともに、隔離対応など早目に行い感染の拡大に努めることができた。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	・活動目標と内容の確認 ・感染防止対策マニュアルの確認と見直し 感染症発生時フローチャート作成
5月	・第1回委員会研修打ち合わせ ・エアコン清掃（夏季）
6月	・第1回委員会研修（食中毒予防・標準予防策・手洗いチェッカー） ・ベランダ・窓清掃（夏の大清掃）打合せ
7月	・第1回委員会研修振り返り 反省 ・ベランダ・窓清掃（夏の大清掃）
8月	・エアコン清掃（秋）打合せ
9月	・エアコン清掃（秋） ・半年間の振り返り
10月	・第2回委員会研修の打ち合わせ ・加湿器準備、取り扱い調査
11月	・第2回委員会研修（感染対策、吐物処理の実践） ・年末大清掃の打合せ
12月	・第2回委員会研修振り返り 反省 ・年末大清掃
1月	・1年間の振り返り、反省
2月	・次年度事業計画作成
3月	・次年度事業計画作成 ・事業報告書作成

医療的ケア推進委員会

【活動目標の評価】

経管栄養・喀痰吸引業務計画書に基づき、入居者の状態に応じて安全適正に実施できるよう手技確認を行い知識、技術の向上に努めます。

→介護福祉士・認定特定行為業務従事者が医療的ケア（喀痰吸引、胃瘻による経管栄養注入）を実施し、事故やアクシデントもなく経過している一方、経管栄養注入は行う機会が少なかつたため、職員によっては自信をもって行うことが出来なかつた。次年度は、手技確認の回数を増やし確実に安全かつ適正に実施できるよう、技術及び知識の向上に努めていく。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回 研修：1 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 活動目標の確認と共有 手順書の確認 具体的な活動内容の検討 手技確認予定表の作成 医療的ケア対象入居者の状況報告
5月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
6月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
7月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 研修の打ち合わせ 医療的ケア対象入居者の状況報告
8月	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア研修「急変時対応と他のスタッフの役割周知を図る」 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
9月	<ul style="list-style-type: none"> 研修の振り返り 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
10月	<ul style="list-style-type: none"> 半年間の振り返り 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
11月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
12月	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の振り返り 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
2月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の振り返りの問題抽出と対策の検討 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認 医療的ケア対象入居者の状況報告
3月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の計画の作成 医療的ケア対象入居者の状況報告

行事委員会

【活動目標の評価】

- 入居者の生きがいづくりや心身機能の維持に繋がるように、四季折々の行事・活動や設えの充実を図ります。

→昨年に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、大掛かりな催し物は自粛しフロアでの活動に変更し実施した。催し物の際は設えを工夫し、季節を感じられる活動の提案を積極的に行ったことで、利用者は雰囲気を感じながら楽しむ事ができ参加率も高くなり、普段とは違う表情を見ることができた。

- 施設内での活動や取り組みの様子を、ホームページを中心に広報し、施設と御家族、地域の方等の閲覧者との情報共有を図ります。

→ご家族に対し、活動や取り組みの様子の写真を手紙と一緒に郵送したり、ホームページに活動内容を掲載することで、日頃の様子を伝えることができ、安心して頂くことができました。ホームページについては迅速に更新し、施設の活動や取り組みの様子を施設外に積極的に広報することが出来た。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

月	具体的活動内容
4月	・行事食（お花見弁当） ・次月行事企画
5月	・行事食（端午の節句料理）・行事企画（夏祭り） ・ユニット行事（母の日）
6月	・行事食（紫陽花弁当） ・行事打ち合わせ（夏祭り） ・ユニット行事（父の日）
7月	・行事食（七夕料理） ・行事打ち合わせ（夏祭り） ・ユニット行事（七夕）おやつ作り（かき氷）
8月	・行事食（お盆料理） ・次月行事企画 ・ユニット行事（夏祭り）
9月	・行事食（敬老のお祝い料理）・ユニット行事（敬老会）
10月	・行事食（駅弁の旅） ・行事企画（クリスマス会） ・ユニット行事（おやつ作り）
11月	・行事食（紅葉弁当） ・行事企画（餅つき） ・ユニット行事（おやつ作り）・行事打ち合わせ（クリスマス会）
12月	・行事食（クリスマス料理） ・ユニット行事（クリスマス会）
1月	・行事食（お正月料理） ・ユニット行事（初詣） ・1年間の振り返り
2月	・行事食（節分料理） ・ユニット行事（節分） ・活動計画内容確認
3月	・行事食（桃の節句料理） ・ユニット行事（ひな祭り） ・次年度事業計画提出

(6) 研修会

① 施設内研修

開催日	研修内容	講師
5月	褥瘡予防 (排泄交換時のおむつの適切な使用方法) オムツあて方の動画視聴後、穴埋め式レポートを提出	褥瘡対策・排泄委員会
6月	感染対策 (感染拡大を抑えるための「ゾーニング」の考え方) ゾーニングの動画視聴後、感想等をレポートにて提出	感染対策委員会
	食中毒研修 (食中毒の基礎知識、予防に対するの注意点の確認、 正しい手洗いの実践) 食中毒についての資料、手洗いの実践でのレポート提出	栄養管理委員会
7月	リスクマネジメント (身体拘束とヒューマンエラーについて) 身体拘束は配布された資料でチェック項目記入後提出 ヒューマンエラーは動画視聴後レポート提出	リスクマネジメント委員会
8月	トロミ剤についての研修 (使用目的・量・方法、対象者の特徴、お茶ゼリー ト ロミ汁試飲)	栄養管理委員会
9月	褥瘡予防 (シーティングの定義・長時間座位の問題点について) シーティングの動画を視聴後、確認テスト記入し提出	褥瘡対策・排泄委員会
11月	感染 (標準予防策の理解) 標準予防策について(動画)穴埋め形式問題提出	感染対策委員会
12月	リスクマネジメント (身体拘束と虐待について) スピーチロックと心理的虐待の動画視聴後、穴埋め式 レポートを提出	リスクマネジメント委員会

※新型コロナウイルス感染予防のため、集合研修を中止し資料配布及びレポート提出、または少人数単位で複数回実施へ変更とした。

② 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
6月10日(金)	メンバーシップ研修 中堅職員2	チームにおける自己の位置づけや役割を理解し、習得すべき基本姿勢やスキルなど、中堅職員に求められるメンバーシップを学ぶ。	介護職員
6月14日(火)	記録技術研修(高齢者)	介護現場において連続・継続したサービスが提供できるよう、記録の意義や目的、ポイントを理解する。	介護職員
6月22日(水)	業務効率化のためのタイムマネジメント研修	管理職員として、組織のタイムマネジメントの重要性を理解し、業務を円滑にすすめるための手法を学ぶ。	介護支援専門員
8月30日(火) 8月31日(水) 9月1日(木) 9月2日(金)	ユニットリーダー研修 実地研修	ケアのマネジメントとユニットのマネジメントの考え方と実践方法の理解。これまでのマネジメントの振り返りと今後の取り組みの方針を踏まえつつ、入居者の個々の暮らし方の違いを理解するとともに、施設で暮らすことを疑似体験する。	介護職員 (講義演習 修了者)
9月7日(水)	介護現場におけるリスクマネジメント研修	サービスを提供していく上で、起こり得るリスクを想定し回避するための対策や、発生した場合の利用者及び事業所の被害を最小限に抑えるための対策について、講義・演習を通して学ぶ。	介護職員
10月19日(水) 10月20日(木)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース4	福祉職員に共通に求められる能力を、段階的・体系的に習得するための基礎的研修である「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」の中堅職員コース。	介護職員
11月1日(火)	介護リーダー研修	介護リーダーとしての「あるべき像」に近づくために、必要な意識、職員とのかかわり方などについて、具体的な事例をもとに学ぶ。	介護職員
11月29日(火) 11月30日(水)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース4	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職員
2月13日(月)	認定調査員現任研修会	要介護認定適正化事業 業務分析データについて宮崎市の状況説明。 認定調査の基本的な考え方、重点講座。	介護支援専門員

3. ケアライフ かなえ

(1) 令和4年度重点目標の達成状況

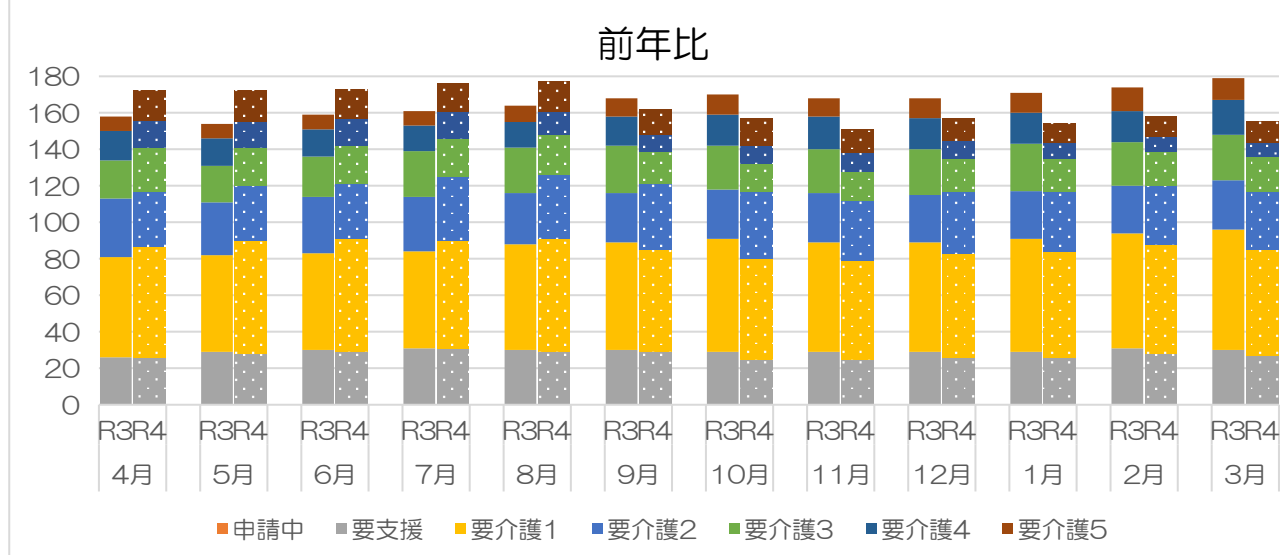
超高齢化社会に求められる介護サービスやニーズを把握し、地域や行政、医療、関係機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に参加し、専門職として質の高い自立支援に向けたケアマネジメントを提供します。災害や感染症への対応力を強化し、利用者に必要なサービスを提供していく体制の確保に努めます。

→介護を必要とする高齢者や障がい者、特定疾患を持った利用者が地域でこれまで営んできた生活を継続する事が出来るよう、利用者・家族の意向を尊重し、自立に向けた支援の検討・調整を行ってきた。合わせて、行政及び地域包括支援センターをはじめとする関係機関や、各サービス事業所等との連携も密に行い、地域で求められているサービスや課題の把握に努めてきた。終息が見えないコロナ禍にて、研修等への参加が中止やZOOM等のオンラインで行われるようになったが、情報収集や医療、多職種との連携は継続し行っている。新型コロナウイルス感染対策にて、訪問、会議等の自粛を余儀なくされてきたが、今後は状況に併せ、これまで以上に、徹底して質の高いケアマネジメントを行ってきたい。

(2) 事業実績

①登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	26	28	29	31	29	29	25	25	26	26	28	27
要介護1	61	62	62	59	62	56	55	54	57	58	60	58
要介護2	30	30	30	35	35	36	37	33	34	33	32	32
要介護3	24	21	21	21	22	18	15	16	18	18	19	19
要介護4	15	14	15	15	13	9	10	10	10	9	8	8
要介護5	16	17	16	15	16	14	15	13	12	10	11	11
合計	172	172	173	176	177	162	157	151	157	154	158	155
ケアマネジャー 在籍数	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4



4. 住宅型有料老人ホームよりそい

(1) 令和4年度重点目標の達成状況

住み慣れた地域で暮らすことができる「地域包括ケア」実現を目指し、個々のニーズに対応でき、特に医療を必要とする方々が安心して生活していただける居住施設とする。また、併設の事業所サービスを併用することで、入居者情報の共有を図り、新しい取り組みに挑戦することができ、高稼働率の維持・継続を図る。

→安心して施設生活を送れるよう、入居希望のご家族に丁寧に説明を行った上で申し込んで頂き、入居に安心して繋がれるようにした。事業所内で、情報の共有をして相互の稼働率の維持・継続に引き続き努めていく。

【サービスの内容】

① 個別ケアの実践

→一人ひとりの想いが反映できるよう、介助を行った。

② 食事介助

→体調管理に留意し、経口摂取が継続できるように配慮した。

③ 排泄介助

→羞恥心に配慮しつつ、体調管理に繋げるような介助を心がけた。

④ 服薬管理・服薬介助

→薬局・クリニックとも連携を図った。

⑤ 健康管理

→主治医や薬局、ケアマネなどと連携を図り、健やかな生活が維持できるよう努めた。

⑥ 福祉用具の活用

→ケアマネジャーや福祉用具事業所と連携を図り、ご本人に合う福祉用具の選定や、ご本人、ご家族への助言等を一緒に行った。

⑦ 秘密保持と個人情報保護

→職員に周知し、情報の取り扱いなどに注意した。

⑧ 身体拘束廃止、高齢者虐待防止

→定期的に委員会や勉強会などを通し職員への意識付けを行った。

⑨ 地域・多職種との連携

→主治医やケアマネ等多職種との連携、また、入居申し込みや見学等の受け入れを行い、必要に応じて相談業務も行った。

⑩ 資質及び専門性の向上

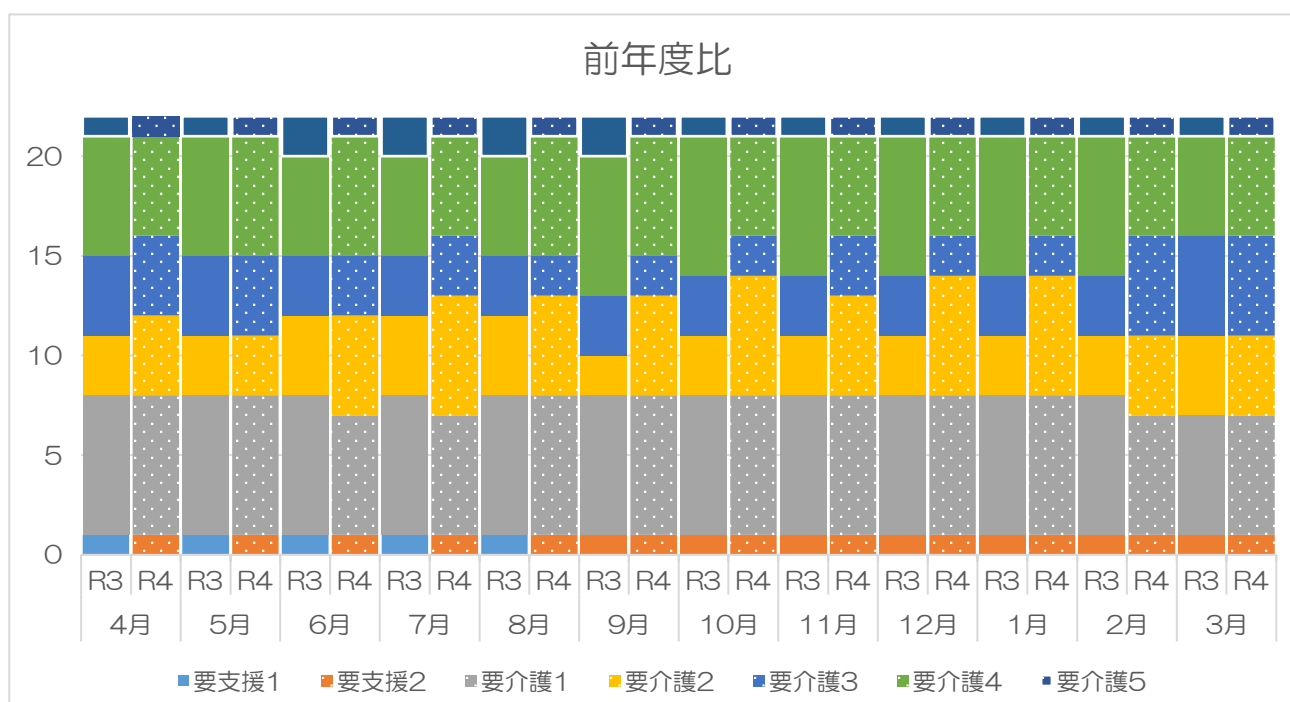
→定期的な勉強会を開催し、業務改善を目的とした中で専門性の再確認などを行った。

(2) 事業実績

① 利用人数

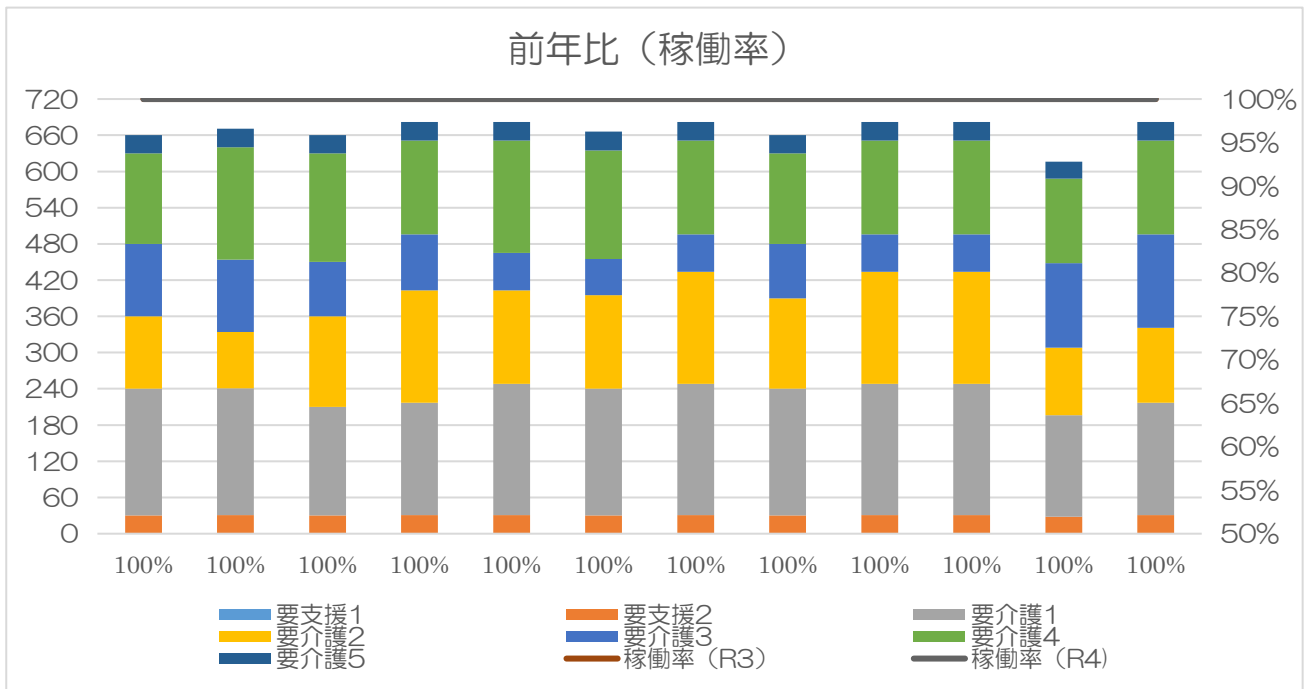
【利用実人数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要介護1	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	6	6
要介護2	4	3	5	6	5	5	6	5	6	6	4	4
要介護3	4	4	3	3	2	2	2	3	2	2	5	5
要介護4	5	6	6	5	6	6	5	5	5	5	5	5
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22



② 入居延日数及び稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
要介護1	210	210	180	186	217	210	217	210	217	217	168	186
要介護2	120	93	150	186	155	155	186	150	186	186	112	124
要介護3	120	120	90	93	62	60	62	90	62	62	140	155
要介護4	150	186	180	155	186	180	155	150	155	155	140	155
要介護5	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
合計	660	682	660	682	682	663	682	660	682	682	616	682
稼働率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



③ 施設内研修・委員会

月	具体的活動内容
4月	・感染対策委員会 ・褥瘡対策、排泄委員会 ・リスクマネジメント委員会
5月	・医療的ケア推進委員会 ・感染対策委員会
6月	・リスクマネジメント委員会 ・褥瘡対策、排泄委員会（身体拘束による弊害について）
7月	・感染対策委員会 ・医療的ケア推進委員会
8月	・食中毒対策勉強会（ミーティング）
9月	・感染対策委員会 ・医療的ケア推進委員会
10月	・褥瘡対策、排泄委員会 ・リスクマネジメント委員会
11月	・感染対策委員会 ・医療的ケア推進委員会
12月	・感染対策実践勉強会
1月	・リスクマネジメント委員会 ・褥瘡対策、排泄委員会
2月	・感染対策委員会
3月	・リスクマネジメント委員会

④ 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
1月 6日（木） 1月 7日（金）	人材確保・育成につなげるキャリアパス構築と活用方法の実施	労働環境の整備、職員の資質向上のためのキャリアアップの仕組み作りを目的とする。	管理者
3月 26日（土）	宮崎市エンディングノートアドバイザーフォローアップ研修	「私ノート」の活用とDNARの注意点などを学ぶ。	管理者

5. 訪問介護よりそい

(1) 令和4年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

→自宅訪問時に本人の意欲、動作の確認、サービス提供の際の情報の共有をし、その方に合ったケアを行うことで、日々の暮らしが楽しめるように支援が行っている。ご利用者様の今の生活を変えることなく支えていけるよう、サービスの提供を行い、担当ケアマネジャー、ご家族と話し合いながら支援していくことが出来ている。

【サービスの内容】

① 身体介護

・入浴及び清拭介助 ・食事介助 ・排泄介助 ・整容 ・更衣介助 ・その他必要な身体介助

→ご本人の体調やADLレベルを確認し、生活動作の維持向上に努めた。

また、羞恥心などに考慮し、プライバシー保護や自立を促せるような支援方法を職員間で共有し、支援した。

② 生活援助

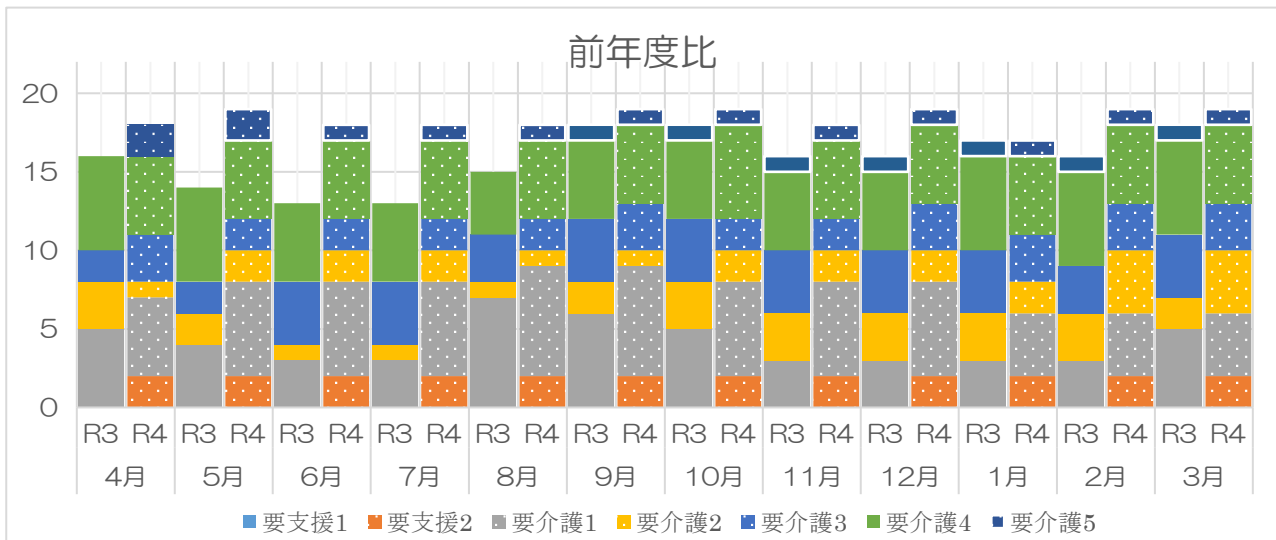
・一般的な調理 ・衣類等の洗濯・補修 ・掃除・整理整頓 ・その他必要な家事・相談等
・買い物支援

→在宅での生活が継続できるよう、また、自立した生活が継続できるよう支援した。また、ご家族やケアマネジャーとの連携を取りながら、自治会の一員としての役割も持てるよう、声掛けを行った。また、(有料老人ホームに)入居しながらも、一人ひとりの生活が楽しめるよう、居室内の清掃や整理整頓を一緒に行えるよう支援した。

(2) 事業実績

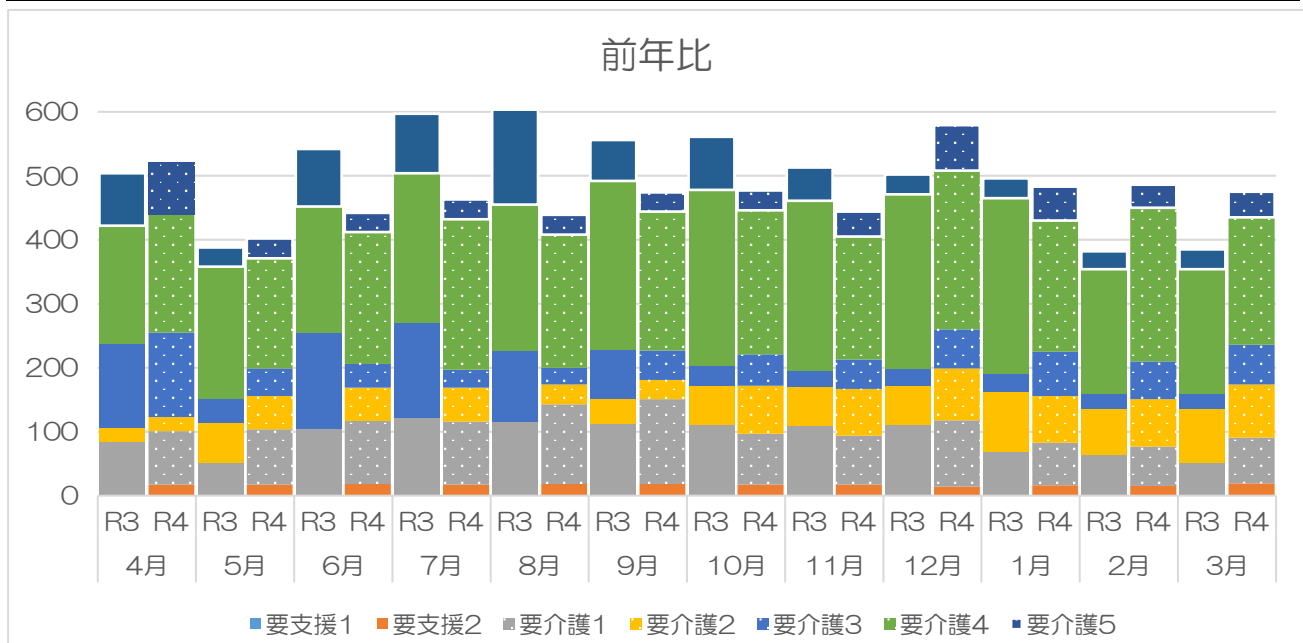
【利用登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護1	5	6	6	7	7	7	6	6	6	4	4	4
要介護2	1	2	2	1	1	1	2	2	2	2	4	4
要介護3	3	5	2	2	3	3	2	2	3	3	3	3
要介護4	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5
要介護5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	18	19	18	13	19	19	19	18	19	17	16	19



【出勤回数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	17	17	18	17	18	18	17	17	14	16	15	19
要介護1	52	87	99	99	125	133	80	77	104	67	62	72
要介護2	62	52	52	53	31	30	75	73	81	73	74	83
要介護3	37	43	37	28	26	46	49	46	61	69	59	62
要介護4	207	172	206	235	208	217	225	192	248	205	240	199
要介護5	30	31	30	31	31	30	31	39	71	53	36	40
合計	405	402	442	463	439	474	477	444	579	483	486	475



6. 通所介護よりそい

(1) 令和4年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。利用者同士のコミュニケーションの場としての機能の充実を図り、レクリエーションや機能訓練その他日常生活の向上に努めていきます。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

→コロナ禍でも、利用者様の個性を活かし楽しみのある時間が過ごせるよう、レクリエーションや個別機能訓練、食事、入浴支援の工夫を行い、日常生活への影響を最小限にすることを心がけた。また、ご家族や担当ケアマネジャー等との関わりを多く持てるよう連携を図った。

【サービスの内容】

① 健康管理

→有料老人ホームの職員及びご家族からの報告やご本人の様子などから、異常の早期発見とその後の対応・連携に努め、健全に日中生活が送れるよう支援した。

② 入浴

→気分転換につながるよう、安心・安全に入浴ができるよう環境整備と雰囲気作りを行った。

③ 排泄介助

→羞恥心を傷つけないよう配慮し、ご本人の体調管理・健康管理へ繋がるように職員間の連携を図った。

④ 食事の提供

→安全に楽しく食事ができるような雰囲気作りや季節に応じた食事の提案、体調管理を考慮し、職員間での連携を図った。

⑤ 個別機能訓練

→個別機能訓練として、個別機能訓練を実施した。また、普段から集団体操を行い、体力維持・増進に努めた。

⑥ レクリエーション

→季節に応じた活動を提供し、楽しみながら他利用者と交流ができ、健康的に体を動かせる機会を作った。

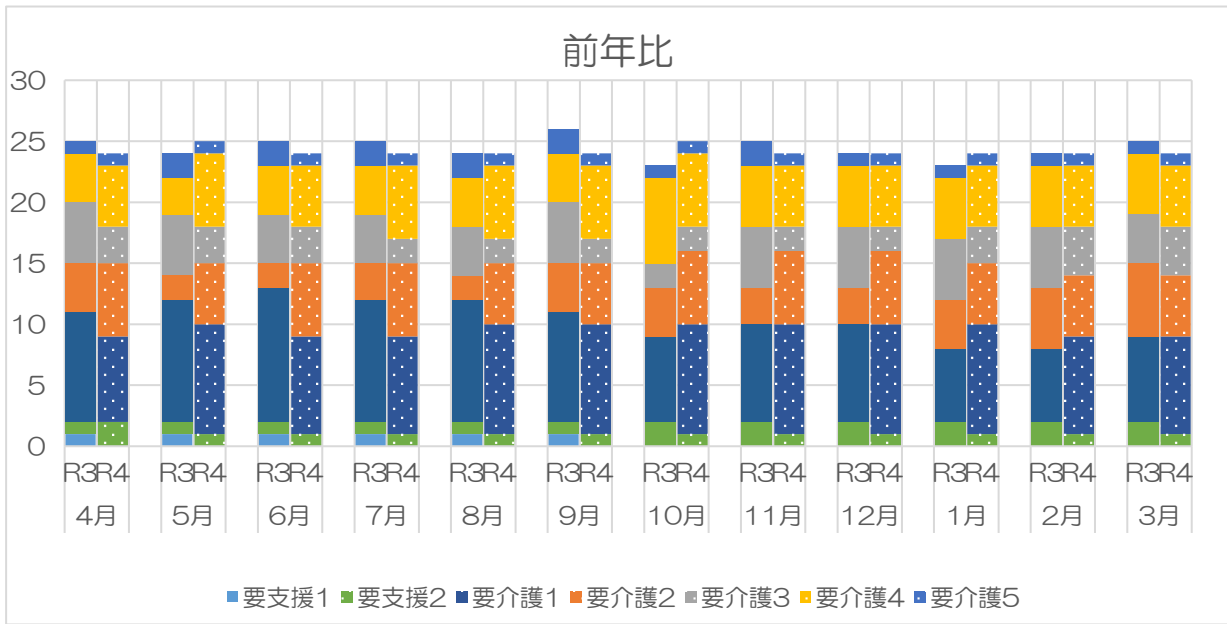
⑦ 送迎

→安全に送迎ができるよう、職員の日頃からの体調管理と安全運転に努め、(有料老人ホームの)職員やご家族からの情報収集ができる機会をつくり、ご本人とご家族の支援に活かした。

(2) 事業実績

① 登録利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要介護1	7	9	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8
要介護2	6	5	6	6	5	5	6	6	6	5	5	5
要介護3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	3	4	4
要介護4	5	6	5	6	6	6	6	5	5	5	5	5
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	24	25	24	25	24	24	25	25	24	24	24	24



② 延利用者数及び稼働率<定員25名> ※令和4年4月より定員を5名増員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	12	5	4	4	5	4	4	5	2	4	4	4
要介護1	131	145	123	121	143	158	155	178	87	161	157	172
要介護2	115	108	134	134	116	121	128	130	66	96	108	121
要介護3	78	78	78	52	50	43	41	43	20	64	64	72
要介護4	103	91	85	110	94	118	117	108	54	98	86	112
要介護5	18	17	17	18	15	17	18	17	7	12	16	18
合計	457	444	441	439	423	461	463	481	236	435	435	499
稼働率	70%	68%	68%	68%	63%	71%	71%	74%	59%	73%	73%	74%

